平成９年度厚生省心身障害研究

「不妊治療の在り方に関する研究」

「患者から見た不妊治療の在り方に関する研究」

（分担研究：不妊治療の実態及び不妊治療技術の適用に関する研究）

分担研究報告書

分担研究者　矢内原　巧[1)]
研究協力者　北村　邦夫[2)]
杉村由香理[2)]、赤城　恵子[2)]、伊藤　妙子[2)]
小川　順子[2)]、鈴木　良子[2)]、関口　淳子[2)]

要約

１９９７年１月から開設した『不妊ホットライン』に寄せられた相談内容について詳細に分析し、不妊の当事者や家族が何を悩み、中でも現在受けている不妊治療に対して、どのような意見を有しているかについて明らかにした。更に、これらの結果を踏まえて、不妊相談の在り方を考えるとともに、不妊の悩みをどう癒やしていくことができるかなどについて考察を加えた。

『不妊ホットライン』に寄せられた一年間の相談件数は９２６件。その概要は以下の通りである。

①性別：男性３．８％、女性９６．２％
②相談者の結婚の有無：既婚９５．７％、未婚１．３％
③相談時間：１１～２０分４２．２％、２１～３０分２２．２％、１０分以下１９．５％
④相談者の年齢：３０～３９歳６２．１％、２０～２９歳２３．９％
⑤相談者の職業：家５１．８％、パートタイム１４．１％、フルタイム１３．８％
⑥ホットラインを知るきっかけ：新聞６３．７％、本／雑誌１０．３％
⑦相談内容：治療への迷い３５．１％、病院情報１９．３％、自分自身のこと１６．６％、検査について１２．０％、病院への不満１１．４％
⑧子供の有無：子供あり１４．７％、子供なし７９．４％
⑨不妊治療の現状：治療中５１．２％、治療なし３７．３％
⑩結婚年数：４年以下４８．３％、５～９年２９．４％、１０～１４年７．９％
⑪治療期間：治療なし２０．４％、１年２１．８％、２年１２．７％、３年７．５％、４年３．６％、５年以上７．７％

これら、寄せられた９２６件の相談内容を集約した結果、以下の結論を得た。

①不妊の悩みは、家族や周囲からのプレッシャー、社会的抑圧、夫婦関係、本人の生育歴から生まれた家族観、人生観などがないまぜになったものとして現出するものであって、それは決して不妊治療についての相談を代表とするものではない。

１）昭和大学医学部産科婦人科学教室
２）（社）日本家族計画協会クリニック

②誰が妊娠し、誰が妊娠しないのかの最終的な見通しは、医師にもわからず、その見通しのない治療の中で、心身を疲弊させている患者は少なくない。
③「不妊の悩みを癒やす」とは、子供ができれば解消するとの誤解があるが、現在の不妊治療が、不妊とのものを治すわけではないわけで、妊娠が必ずしも不妊からの解放に繋がるわけではない。
④現実には、いくら不妊治療を繰り返しても子供が授からないカップルがおり、不妊相談を「子供が生まれることを」への援助を目標としてしまったら、彼らは取りこぼされてしまうことになる。したがって、不妊相談を医療相談、治療相談に終始させないような配慮が必要である。
⑤そのためにも、不妊相談を不妊治療施設に併設するのではなく、不妊治療施設と独立させた形で執り行うことが期待される。

見出し語：不妊の当事者、不妊の悩み、不妊ホットライン、不妊治療

研究方法

1．１９９７年1月か１２月までの１年間に、私どもが実施している『不妊ホットライン』に寄せられた相談内容を、コード化し、コンピュータ入力後、マイクロソフト社製エクセル９７によって集計・解析した。コード化された項目を以下に挙げた。

受付年月日、相談時間、性別、年齢、結婚の有無、地域区分、職業、情報経路、相談者、情報（検査、薬、ＡＩＨ、ＡＩＤ、体外受精・顕微受精、男性不妊、代理母・卵提供、病院情報、多胎妊娠・減数手術、その他）、治療の悩み（治療への迷い、病院への不備、費用、仕事との両立、その他）、治療以外の悩み（周囲との人間関係、夫とのこと、自分自身のこと、妊娠・出産・育児、養子、子どものいない人生、その他）、子供（有り、無し、妊娠中）、不妊原因（男性不妊、女性不妊、双方、機能性不妊、不明、その他）、検査（双方とも済み、女性済み、男性済み、検査中、未検査）、現在（治療中、治療していない）、結婚年数、治療期間、避妊していない期間

2．不妊ホットラインに寄せられた相談のうち、「患者から見た不妊治療の在り方」という研究テーマに適合すると思われるものなどを抽出し、その対応法についても示した。

3．更に、これらの結果を踏まえた不妊相談の在り方について言及した。

結果と考察

1．はじめに

厚生省が１９９５年度からスタートさせた「生涯を通じた女性の健康支援事業」の一環として、日本家族計画協会クリニックでは、『不妊ホットライン』を開設した。
不妊の当事者が求めているのは、不妊治療相談に限るものではないと考えた私ども

は、不妊で長い間悩み、苦しんできた女性、すなわちピア（仲間、この場合は不妊の当事者）をカウンセラーとして、不妊ホットラインを開設した。以来、１２か月が経過し、相談件数は９２６件に達した。本研究班では、このホットラインの詳細な集計と分析を通して、「患者から見た不妊治療の在り方」について種々提言することとしたい。

２．不妊ホットラインの実際

電話相談番号　　０３－３２３５－７４５５
開設日時　　１９９７年1月７日（火）より毎週火曜日
　　１０時から１６時（昼休み１２時から１３時）
相　談　者　　相談員は不妊の当事者２人、
開設主体　　（社）日本家族計画協会クリニック
　　〒162　東京都新宿区市谷田町１－１０　保健会館新館
内　　容　　電話による相談、無料

３．不妊ホットラインの実績と分析結果（１９９７年1月～１２月）

不妊の当事者を相談員として行う電話相談は、わが国においても極めて異例である。しかし、不妊の当事者であるからこそ、不妊であることの悩みを共有したり、相互理解を図ることができるわけで、おのずと、相談の内容は、医療に係る問題よりも、「医療を続けることへの迷い」「医療機関への不満」「自分自身のこと」など、不妊の当事者の心の葛藤が映し出されている姿が目立っている。
以下、単純集計とクロス集計の結果を示し、考察を加えた。

（１）相談時間帯

相談時間帯は、ホットライン開始の時間を待つように、１０時台が最も高く、ついで、昼食時間を終えて、午後の相談を開始する１３時台となっている。

10時台	11時台	13時台	14時台	15時台	総計
222	177	185	176	166	926
24.0%	19.1%	20.0%	19.0%	17.9%	100.0%

（２）相談者の性別

私どもの施設では、長い間「思春期の性の悩み」を受け止める電話相談を実施してきたが、その際でも、「相談者」とは、相談をしてきた人そのものではなく、相談の内容から「相談者」を判断することとしてきた。換言すれば、相談は妻が行っているとしても、その内容が夫の不妊、例えば、精子欠乏症とか勃起不全などが中心であった場合には、「相談者」は「男性」と分類している。
したがって、『不妊ホットライン』では「男性」に係る問題が３．８％、「女性」に係るものが９６．２％となっている。

男性	女性	総計
35	891	926
3.8%	96.2%	100.0%

（３）相談者の結婚の有無

既婚者が９５．７％と大半を占めており、当然とはいえ「不妊」が、結婚しているカップルに深刻な問題となっていることがわかる。

未婚	既婚	同棲	不明	総計
12	886	2	26	926
1.3%	95.7%	0.2%	2.8%	100.0%

（４）相談時間（分）

『思春期ホットライン』で、その相談時間を算出すると、「男性」では平均５分程度、「女性」では８分となっている。一方、『不妊ホットライン』の場合、中央値は１１～２０分で、４２．２％。平均は、概ね２０分と相談時間が長くなっている。限られた開設時間、限られた受信機数、限られたマンパワーで行う相談であるから、この結果などを踏まえて、原則２０分程度で相談を打ち切るように努めている。

1-10	11-20	21-30	31-40	41-50	51-60	61-70	81-90	総計
181	391	206	100	39	5	3	1	926
19.5%	42.2%	22.2%	10.8%	4.2%	0.5%	0.3%	0.1%	100.0%

（５）相談者の年齢分布（歳）

不妊に悩む当事者ということもあって、結婚直後の２０から２９歳（２３．９％）よりも、おそらく結婚から数年を経たと思われる３０～３９歳が６２．１％と大半を占めている。５０歳を超えても、不妊の悩みから解放されない人もいることがわかる。

20-29	30-39	40-49	50-59	不明	総計
221	575	51	9	70	926
23.9%	62.1%	5.5%	1.0%	7.6%	100.0%

（６）相談者の住所地

本来は、東京都民を中心に実施している相談事業であるが、全国紙などで取り上げられ話題になったこともあり、相談者は全国各地に及んでいる。

東京	神奈川	千葉	埼玉	その他	不明	総計
277	144	79	97	272	57	926
29.9%	15.6%	8.5%	10.5%	29.4%	6.2%	100.0%

（７）相談者の職業

不妊治療を受けている女性の場合、仕事との両立が困難であることが話題となるが、ここでも、フルタイムで働く人は１３．８％に過ぎなかった。わずかながら、男性からの相談があることを考慮すると、不妊女性が働きながら、不妊治療を受けることの難しさが改めて浮き彫りされたというべきか。それとも、『不妊ホットライン』の開

設時間が、働く人向きではないというべきか。中には、混み合ってなかなか受信されない『不妊ホットライン』に業を煮やして、「きょうは仕事を休んで、ダイヤルを回しつづけました」と、電話が繋がった直後に叫んだ人もいた。

家事	パート	フルタイム	その他	不明	総計
480	131	128	30	157	926
51.8%	14.1%	13.8%	3.2%	17.0%	100.0%

（8）情報経路

１９９７年１月７日からスタートした『不妊ホットライン』には、新聞社、雑誌社などから多数の取材依頼があった。これを反映した結果と言える。新聞に取り上げられてから、久しくなるが、このように新聞を情報源としてが６３．７％も占めることを見ると、当事者にとって必要とする記事は、スクラップするなどして保管されていることが推測される。最近では、不妊を扱う医療機関からの紹介患者が電話をかけてくる例が散見されている。

新聞	本／雑誌	友人	保健所	病医院	他公的機関	協会関連	不明	総計
590	95	26	8	12	2	62	131	926
63.7%	10.3%	2.8%	0.9%	1.3%	0.2%	6.7%	14.1%	100.0%

（9）相談者

この場合、相談者とは、「電話をかけてきた人」と、その問題を抱えている人との関係をみたものである。本人が９３．８％、次いで実母、パートナーの順であった。

本人	パートナー	実母	実父	義父母	友人	その他	不明	総計
869	18	27	2	2	3	1	4	926
93.8%	1.9%	2.9%	0.2%	0.2%	0.3%	0.1%	0.4%	100.0%

（１０）（１１）（１２）相談内容

（１０）（１１）（１２）については、該当するものがあれば、そのうち、最も印象に残った問題、それぞれ１項目だけ選択することとしている。これによれば、第一位「治療への迷い」（３５．１％）、第二位「病院情報」（１９．３％）、第三位「自分自身のこと」（１６．６％）、第四位「検査について」（１２．０％）、第五位「病院への不満」（１１．４％）の順となっている。中でも、「治療への迷い」に関する相談は高率であり、本報告書にも、その概要を明らかにしたが、「いつまでこの治療を続けるべきか」など、先の見えない不妊治療への不安、疑問が渦巻いているように思われる。

「医師によって言うことが違う」「医師に聞いても適当にあしらわれているような感じがする」「病院がお役所的で人間の心を大切にしない」など、率直な医師や医療機関不信の声。「夫はまだがんばれというが、自分はもう休みたい」「「自分はこのままあきらめてもいいかなと思うが」と治療への迷い。「墓守を早く産んで欲しい。孫がいなくては死にきれない」「子供を作れないとはうちの嫁として失格だ」など、舅、姑からの厳しい仕打ち。「二人目はまだ？　一人っ子じゃ可哀想」「老後のことを考えると娘でなければね」と二人目不妊の悩み。妊の当事者の尽きない悩みを、身近にいる夫、兄姉、親だけでなく、不妊医療に関わっている医療従事者がどう受け止め、

助言を与えているのか。問題が山積していることを強く感じる。

（１０）知りたい情報

検査	薬	AIH	AID	体外受精・顕微受精	男性不妊	代理母・卵提供	病院情報	多胎妊娠・減数手術	その他
111	52	16	10	44	28	8	179	19	74
12.0%	5.6%	1.7%	1.1%	4.8%	3.0%	0.9%	19.3%	2.1%	8.0%

（１１）治療の悩み

治療への迷い	病院への不満	費用	仕事との両立	その他
325	106	7	4	15
35.1%	11.4%	0.8%	0.4%	1.6%

（１２）　治療以外の悩み

周囲との人間関係	夫とのこと	自分自身のこと	妊娠・出産・育児	養子	子どものいない人生	その他
60	66	154	6	5	18	21
6.5%	7.1%	16.6%	0.6%	0.5%	1.9%	2.3%

（１３）　子供の有無

不妊の当事者にとっては、「妊娠」「出産」が最終ゴールではないこと。不妊治療に成功すれば、問題が解決するわけではないことを示唆する興味深いデータがこれである。「子供あり」が１４．７％おり、それでもなお、『不妊ホットライン』を利用しようとする心理、その背景には何が潜んでいるのだろうか。高度生殖医療を利用することで、念願の妊娠、出産に至った彼らのことを知る親族や、友人は少ない。そのため、出産直後から、厳しい言葉が向けられることになる。「一人ができたのだから二人目は簡単よ」…そうだろか？　一人目の妊娠に至るまで、どれだけの時間と経費がかかったことか。しかも、妊娠は、自らの力というよりも、排卵誘発の結果であり、高度生殖医療の恩恵を受けてであり、決して「簡単」であったわけではないのだ。「一人っ子じゃかわいそうよ」…しばしば向けられる暴言である。十分にわかっていることでも、己の意志ではかなわぬことも多いのだ。「できれば、子供は三人くらいいたほうがいいわよね」…返す言葉もない。などなど、「できた」からこそ「次にできない」ことへの苦痛も増幅されるという複雑な一面を覗かせる事例である。

子供あり	子供なし	妊娠中	不明	総計
136	735	2	53	926
14.7%	79.4%	0.2%	5.7%	100.0%

（１４）　不妊の原因

一般には、男性因子と女性因子、両性因子が３分の１づつといわれているが、ここでは、女性不妊が２８．４％、男性不妊がその半分程度との結果が出ている。中には、不妊の原因が「自分の息子にある」ことが判明しているのに、「親族には言ってはいけない」と口止めされ、あたかも、原因が自分にあるかのように振る舞うことを余儀なくされた女性もいる。このように、不妊に悩む主体が女性であることは、不妊の責

任を一人背負わされている女性の姿の反映ともいえる。

男性不妊	女性不妊	双方	機能性不妊	不明	その他	無回答	総計
109	263	64	117	189	49	135	926
11.8%	28.4%	6.9%	12.6%	20.4%	5.3%	14.6%	100.0%

（１５）　　検査状況

双方とも検査が済んでいるとの回答が５割を超えているというのは特筆すべきことである。

双方とも済み	女性だけ済み	男性だけ済み	検査中	まだ	無回答	総計
467	88	14	52	226	79	926
50.4%	9.5%	1.5%	5.6%	24.4%	8.5%	100.0%

（１６）　　不妊治療の現状

現在治療を行っている人が５１．２％。「治療歴１０年。ＡＩＨ８０回」「体外受精で年間１００万円使う」など、過剰な医療と思われる事例も少なくない。中には、「医者からはもう無理だと言われたが、私としての１％の可能性でもそれに賭けたい」などの声に促されて、殆ど意味のない医療を繰り返すこともあるようだが、「不妊治療、始める時」と同様、「不妊治療、止める時」のタイミングをどう設定するのか、専門家としての技量が問われている。

既に、治療を受けている人が、どのような悩みを抱えているかは、以下にクロス集計の結果を示した。

治療中	治療なし	無回答	総計
474	345	107	926
51.2%	37.3%	11.6%	100.0%

（１７）　　結婚年数

「結婚したら子供ができて当たり前」という風潮が、女性に大きなプレッサシャーになっていることを示すデータである。結婚５年を経てというよりも、結婚直後から、不妊の悩みが起こっている可能性が高い。

0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	40-	不明	総計
447	272	73	12	4	1	1	116	926
48.3%	29.4%	7.9%	1.3%	0.4%	0.1%	0.1%	12.5%	100.0%

（１８）　　治療期間

治療なしが２割を占めるが、治療期間については１年（２１．８％）、２年（１２．７％）、３年（７．５％）の順。

治療なし	１年	２年	３年	４年	５年	６年	７年	８年	10年	13年	15年	不明	総計
189	202	118	69	33	36	15	9	4	6	1	1	243	926
20.4%	21.8%	12.7%	7.5%	3.6%	3.9%	1.6%	1.0%	0.4%	0.6%	0.1%	0.1%	26.2%	100.0%

（１９）　　相談者の年齢と相談内容

相談内容については、「治療の悩み」「治療外の悩み」「知りたい情報」について、該当するものがあれば、相談員として、最も印象に残った問題、それぞれ１項目だけ選択することとしている。これによれば、既に述べたように、「治療への迷い」（３５．１％）、「病院情報」（１９．３％）、「自分自身のこと」（１６．６％）、「検査について」（１２．０％）、「病院への不満」（１１．４％）の順であった。これを更に、詳細に検討するために、以下クロス集計を試みた。

①治療の悩み

数は少ないとはいえ、「治療への迷い」を最も強く訴えているのが、２０歳から２４歳であることは予想外の結果であった。治療への迷いが、決して、高年齢ゆえの問題でないことがわかる。おそらく、「まだ結婚して間もないのに、どうしてこんな治療をしなければならないのか」という疑問の現れなのかもしれない。「病院への不満」「仕事との両立」などに、年齢による差は認められなかった。不妊医療には、しばしば、保険適応外診療のために、経費がかかり過ぎるとの批判があるが、「費用」を悩みとしている人は、３５歳から３９歳で僅かに２．１％いたに過ぎず、全体としては、さほど問題になっていないことがわかった。

		治療への迷い	病院への不満	費用	仕事との両立	その他
男性計		5	2			1
		14.3%	5.7%	0.0%	0.0%	2.9%
女性計		320	104	7	4	14
		35.9%	11.7%	0.8%	0.4%	1.6%
女性	２０歳～２４歳	12	3	0	0	0
		50.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	２５歳～２９歳	69	26	0	2	5
		35.6%	13.4%	0.0%	1.0%	2.6%
	３０歳～３４歳	138	37	2	2	6
		37.5%	10.1%	0.5%	0.5%	1.6%
	３５歳～３９歳	71	22	4		1
		37.6%	11.6%	2.1%	0.0%	0.5%
	４０歳以上	15	5	0	0	0
		28.8%	9.6%	0.0%	0.0%	0.0%
総　計		325	106	7	4	15
		35.1%	11.4%	0.8%	0.4%	1.6%

②治療外の悩み

「自分自身のこと」への悩みは、加齢とともに高くなる傾向があった。５歳階級で、その割合をみると、２０歳から２４歳が１２．５％、以下、１３．９％、１７．９％、１９．０％、３０．８％の順であった。特に、４０歳を超える頃になると、その深刻さは一段と強くなるようだ。「周囲との人間関係」や「夫とのこと」なども、「自分自身のこと」と同様、不妊の当事者を悩ませる問題であるが、これには、年齢との相関は認められない。また、不妊の当事者としても、医療の甲斐なく時が過ぎ、３５歳を超えると、真剣に「子どものいない人生」と向き合わなければならないことがわかる。

		周囲との人間関係	夫とのこと	自分自身のこと	妊娠・出産・育児	養子	子どものいない人生	その他
男性計			1	3				2
		0.0%	2.9%	8.6%	0.0%	0.0%	0.0%	5.7%
女性計		60	65	151	6	5	18	19
		6.7%	7.3%	16.9%	0.7%	0.6%	2.0%	2.1%
女性	２０歳～２４歳	2	2	3	0	0	0	1
		8.3%	8.3%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%
	２５歳～２９歳	9	11	27	1	0	2	3
		4.6%	5.7%	13.9%	0.5%	0.0%	1.0%	1.5%
	３０歳～３４歳	33	26	66	3	0	4	6
		9.0%	7.1%	17.9%	0.8%	0.0%	1.1%	1.6%
	３５歳～３９歳	12	20	36	1	2	9	4
		6.3%	10.6%	19.0%	0.5%	1.1%	4.8%	2.1%
	４０歳以上	2	5	16	0	3	3	1
		3.8%	9.6%	30.8%	0.0%	5.8%	5.8%	1.9%
総計		60	66	154	6	5	18	21
		6.5%	7.1%	16.6%	0.6%	0.5%	1.9%	2.3%

③知りたい情報

「どんな病院がいいか」「病院を紹介してくれ」との問い合わせが多いが、実際には、個々の病院の正確な情報を持ち得ない私どものは、「商業誌」の調査結果などを頼らざるを得ないというのが現状である。責任ある情報を提供するために、独自の調査を行うか、日本産科婦人科学会や日本不妊学会など、関連団体が、不妊の当事者の利用しやすいデータベースの整備を期待したい。

		検査	薬	AIH	AID	体外受精・顕微受精	男性不妊	代理母・卵提供	病院情報	多胎妊娠・減数手術	その他
男性計		4	1	1		3	4	1	7		8
		11.4%	2.9%	2.9%	0.0%	8.6%	11.4%	2.9%	20.0%	0.0%	22.9%
女性計		107	51	15	10	40	24	7	172	19	66
		12.0%	5.7%	1.7%	1.1%	4.5%	2.7%	0.8%	19.3%	2.1%	7.4%
女性	２０歳～２４歳	6	4	0	0	0	1	0	1	0	2
		25.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	4.2%	0.0%	8.3%
	２５歳～２９歳	31	14	4	2	11	8	0	50	4	14
		16.0%	7.2%	2.1%	1.0%	5.7%	4.1%	0.0%	25.8%	2.1%	7.2%
	３０歳～３４歳	46	22	3	6	15	8	0	77	8	23
		12.5%	6.0%	0.8%	1.6%	4.1%	2.2%	0.0%	20.9%	2.2%	6.3%
	３５歳～３９歳	13	7	4	1	8	7	0	31	3	16
		6.9%	3.7%	2.1%	0.5%	4.3%	3.7%	0.0%	16.5%	1.6%	8.5%
	４０歳以上	4	0	1	1	4	0	7	2	1	5
		7.7%	0.0%	1.9%	1.9%	7.7%	0.0%	13.5%	3.8%	1.9%	9.6%

総　計	111	52	16	10	44	28	8	179	19	74
	12.0%	5.6%	1.7%	1.1%	4.8%	3.0%	0.9%	19.3%	2.1%	8.0%

（２０）治療の有無と悩み

治療中であるがために、「治療への迷い」や「病院への不満」が際だつ。医師に全幅の信頼を寄せるとはいえ、十分な説明もないままに続けられる検査や治療。いつまで繰り返されるのか、妊娠・出産を目指す不妊医療。果てしない戦いに疲弊した不妊の当事者の声が聞こえるようだ。

①治療の有無と治療の悩み

	治療への迷い	病院への不満	費用	仕事との両立	その他
治療中	206	77	5	2	11
	43.5%	16.2%	1.1%	0.4%	2.3%
治療していない	88	21	1	1	4
	25.5%	6.1%	0.3%	0.3%	1.2%
不明	31	8	1	1	
総計	325	106	7	4	15

②治療の有無と治療外の悩み

	周囲との人間関係	夫とのこと	自分自身のこと	妊娠・出産・育児	養子	子どものいない人生	その他
治療中	30	26	80	4	2	13	4
	6.3%	5.5%	16.9%	0.8%	0.4%	2.7%	0.8%
治療していない	25	31	61	2	2	3	11
	7.2%	9.0%	17.7%	0.6%	0.6%	0.9%	3.2%
不明	5	9	13		1	2	6
総計	60	66	154	6	5	18	21

③治療の有無と知りたい情報

	検査	薬	AIH	AID	体外受精・顕微受精	男性不妊	代理母・卵提供	病院情報	多胎妊娠・減数手術	その他
治療中	37	40	12	8	37	16		78	7	30
	7.8%	8.5%	2.5%	1.7%	7.8%	3.4%	0.0%	16.5%	1.5%	6.3%
治療していない	63	7	3	2	4	12	6	88	12	35
	18.3%	2.0%	0.9%	0.6%	1.2%	3.5%	1.7%	25.5%	3.5%	10.1%
不明	11	5	1		3		2	13		9
総計	111	52	16	10	44	28	8	179	19	74

（２０）　　子供の有無と相談内容

「子供ある」「子供なし」群での違いは、さほど顕著ではない。強いて挙げれば、「子供あり」では、更なる不妊医療への参加とともに、「妊娠・出産・育児」への悩みが加わっていること（２．２％）。「多胎妊娠」への不安（６．６％）。「子供なし」では、「子供のいない人生」（２／３％）、「体外受精」（５．０％）への関心が向けられている。

①治療の悩み

	治療への迷い	病院への不満	費用	仕事との両立	その他
子供あり	44	19	1		2
	32.4%	14.0%	0.7%	0.0%	1.5%
子供なし	266	81	6	4	13
	36.2%	11.0%	0.8%	0.5%	1.8%
妊娠中					
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
不明	15	6			
総計	325	106	7	4	15

② 治療外の悩み

	周囲との人間関係	夫とのこと	自分自身のこと	妊娠・出産・育児	養子	子どものいない人生	その他
子供あり	12	8	26	3		1	2
	8.8%	5.9%	19.1%	2.2%	0.0%	0.7%	1.5%
子供なし	46	53	123	2	5	17	15
	6.3%	7.2%	16.7%	0.3%	0.7%	2.3%	2.0%
妊娠中				1			
	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
不明	2	5	5				4
総計	60	66	154	6	5	18	21

③ 知りたい情報

	検査	薬	AIH	AID	体外受精・顕微受精	男性不妊	代理母・卵提供	病院情報	多胎妊娠・減数手術	その他
子供あり	18	6			5			20	9	12
	13.2%	4.4%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	14.7%	6.6%	8.8%
子供なし	87	42	15	10	37	28	8	155	10	58
	11.9%	5.7%	2.0%	1.4%	5.0%	3.8%	1.1%	21.1%	1.4%	7.9%
妊娠中										1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
不明	6	4	1		2			4		3
総計	111	52	16	10	44	28	8	179	19	74

（２２）不妊治療の期間と相談内容

不妊治療期間が長引くにつれ、「治療への迷い」が徐々に高まり、「体外受精・顕微受精」など高度生殖医療への関心が高まっていくのは、当然の結果といえよう。「治療への迷い」は、１年目が３３．２％だったのに、２年目３９．８％、３年目４６．４％、４年目には５７．６％というように、顕著な増加傾向を認めることができる。また、高度生殖医療については、１年目が４．０％、２年目が５．１％に対し、３年目になると１０．１％と増加していく。「治療なし」群や「１年目」にはなかった「代

理母・卵提供」が３年目には５．８％と急増する。その一方、「病院情報」などは、医療機関の固定化が進むのか、１年めの２２．８％に対して、４年目では１２．１％と低下するのは興味深い。「病院への不満」も同様で、２年目にピーク（２１．２％）に達し、３年目１０．１％、４年目６．１％と低下していく。

治療期間との関連で深刻さを増すのが、「自分自身のこと」である。「治療なし」では１５．９％であったものが、治療５年ともなると２２．２％、６年以上では３６．１％と、子供のいない自分の将来を憂え、悩む姿が見える。それは、「子供のいない人生」を考えざるを得ない事態に陥るのが、５年目８．３％、６年目８．３％と高率（１年目１．０％）などからも伺える。

①治療期間と知りたい情報

	検査	薬	AIH	AID	体外受精・顕微受精	男性不妊	代理母・卵提供	病院情報	多胎妊娠・減数手術	その他
治療なし	37	2	2		2	12		44	10	28
	20.3%	1.1%	1.1%	0.0%	1.1%	6.6%	0.0%	24.2%	5.5%	15.4%
１年	24	16	7		8	7		46		11
	11.9%	7.9%	3.5%	0.0%	4.0%	3.5%	0.0%	22.8%	0.0%	5.4%
２年	7	8		1	6	2	1	25	1	9
	6.0%	6.8%	0.0%	0.9%	5.1%	1.7%	0.9%	21.4%	0.9%	7.7%
３年	4	7	1	2	7	3	4	9	1	5
	5.8%	10.1%	1.4%	2.9%	10.1%	4.3%	5.8%	13.0%	1.4%	7.2%
４年	1	2	1	3	3	1		4	2	1
	3.0%	6.1%	3.0%	9.1%	9.1%	3.0%	0.0%	12.1%	6.1%	3.0%
５年	1	3	1		3	2		6		2
	2.8%	8.3%	2.8%	0.0%	8.3%	5.6%	0.0%	16.7%	0.0%	5.6%
６年以上	0	1	0	2	8	0	0	5	1	1
	0.0%	2.3%	0.0%	4.7%	18.6%	0.0%	0.0%	11.6%	2.3%	2.3%
不明	37	13	4	2	7	1	3	40	4	17
総計	111	52	16	10	44	28	8	179	19	74

② 治療期間と治療の悩み

	治療への迷い	病院への不満	費用	仕事との両立	その他
治療なし	52	9	2		2
	27.5%	4.8%	1.1%	0.0%	1.1%
１年	67	35	1	1	5
	33.2%	17.3%	0.5%	0.5%	2.5%
２年	47	25		1	3
	39.8%	21.2%	0.0%	0.8%	2.5%
３年	32	7			3
	46.4%	10.1%	0.0%	0.0%	4.3%
４年	19	2			
	57.6%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%
５年	18	5		1	
	50.0%	13.9%	0.0%	2.8%	0.0%
６年以上	17	0	2	0	0

	47.2%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%
不明	73	23	2	1	2
総計	325	106	7	4	15

③治療期間と治療以外の悩み

	周囲との人間関係	夫とのこと	自分自身のこと	妊娠・出産・育児	養子	子どものいない人生	その他	総計
治療なし	11	22	30	1	2	2	7	189
	5.8%	11.6%	15.9%	0.5%	1.1%	1.1%	3.7%	100.0%
1年	15	11	30			2	1	202
	7.4%	5.4%	14.9%	0.0%	0.0%	1.0%	0.5%	100.0%
2年	13	8	22	2	1	2		118
	11.0%	6.8%	18.6%	1.7%	0.8%	1.7%	0.0%	100.0%
3年	1	4	12	1		3		69
	1.4%	5.8%	17.4%	1.4%	0.0%	4.3%	0.0%	100.0%
4年	3	4	5			2	1	33
	9.1%	12.1%	15.2%	0.0%	0.0%	6.1%	3.0%	100.0%
5年	4	2	8			3		36
	11.1%	5.6%	22.2%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	100.0%
6年以上	1	1	13	0	1	3	1	36
	2.8%	2.8%	36.1%	0.0%	2.8%	8.3%	2.8%	100.0%
不明	12	14	34	2	1	1	11	243
総計	60	66	154	6	5	18	21	926

4．不妊ホットライン事例集

番号	相談時間	年齢・性別	相談者	地域	内　容	対　応
55	8分	35歳女	本人	東京	病院へ行くと何をされるのか、何を聞かれるか不安で行くべきかどうか迷っている。	
56	20分	37歳女	本人	神奈川	薬・注射などの使用方法について、同じような悩みをもつ友人と違う気がするし、医師によって言うことが違う。	他人と比べずに主治医に確認を
57	28分	33歳女	実母	愛知	医師は心配ないと言うが、クロミッドの副作用が心配なので半錠ずつ服用させている…などだらだらと悩みがはっきりしない。	どんな薬にも副作用はあります。娘さんはどう考えているのか。子どもは夫婦二人の問題。
61	10分	29歳女	本人	埼玉	2年通った病院を替えようか迷っている。医師に聞いても適当にあしらわれている感じがする。周りに不妊の人がいないので不安。	自助グループ紹介

62	20分	34歳女	本人	東京	治療期間9年。IVFを5回、流産1回。回数を重ねればできるものではないと言われるが、経済的にも苦しい。夫はまだがんばりたいと言うが自分は休みたいという気持ちもある。でもやめたくない。	次のIVFまで時間があるので、自分の気持ちをよく確かめてみましょう
64	33分	36歳女	本人	神奈川	愚痴になるが聞いてほしい。両方の卵管がなくIVF済み。どうやってあきらめたらいいか。子どもを作ること中心の生活。60歳くらいになって後悔するのが怖い。誘発剤の副作用で太ってしまい、身体も心配。「我が子を抱きたい」これだけが望み。私は加害者、夫に申し訳ない。	受容。共感のみ。
78	20分	38歳女	本人	東京	3年前出産。難産だった。3年前よりセックスができない。怖い。	セックスレスを受け入れる病院紹介
87	20分	32歳女	本人	東京	男性不妊。AIDしてでも欲しいと思うが夫は拒否。自分はあきらめられない。気持ちを分かってくれる人がいない。他の人の話を聞きたい	AIDは夫婦の合意が大切であることをつたえる。自助グループ紹介。
88	24分	30歳女	本人	埼玉	検査未。治療2年。こんな治療でいいのか。薬の使い方に不信感あり。ほとんど説明がない。いつまでこの状態が続くのか、自分の身体にも不安。	医師とは信頼関係が大切。検査を受けずに治療することで不安を抱くなら、検査を受けるように申し出たらどう？
101	18分	31歳女	本人	神奈川	高額の医療費のことを考えると就職したいが、以前の職場で心ない言葉に傷ついた。妊婦は堂々と検診に行くのに。皆はどうしているのだろうか。	仕事と治療のかねあいで悩んでいる人はたくさんいる。どちらかを選択する人、理解者を見つける人と様々
104	21分	34歳女	本人	東京	黄体機能不全。流産経験あり。高温期から下がってしまうことがとても怖い。神経質だと医者に言われるとつらい。病院がお役所的で人間の心を大切にしない。	ひたすら受容、共感。 流産の喪失感を十分に癒すことを勧める。
113	24分	31歳女	本人	愛知	子宮の奥にひだがあるとのことでレーザーで焼いたが、その後出血が続くものの、検診時に説明がない。不妊検査の結果についてもはっきり聞いていない。医師が偉そうでこわい。聞ける雰囲気ではない。	聞かない患者側にも問題あり。病院を替えるにしても、これまでの経緯を説明できなければ無意味。少なくとも今までの検査結果、手術の結果については説明を受けましょう。
118	25分	35歳女	本人	埼玉	薬の副作用で体調が悪い。薬のことを知りたい。医師には言えない、医師を攻めるような気がする。治療3年、薬を飲めば妊娠できるというなら考えるが、そろそろ治療	率直につらいことを医師に伝え相談したり、アドバイスをもらうべき。自分の気

					をやめるべきなのか悩んでいる。	持ちも整理してみて。
119	26分	38歳女	本人	東京	２回流産。高温期が短い。患者の選択を重視してくれる病院なので信頼している。自分は習慣性流産なのか、どんな治療法があるのか。	信頼関係のなかでよく医師からの説明を得ることを勧める。
122	14分	39歳女	本人	埼玉	AIH十数回。４０歳近くなって養子のことを真剣に考えている。女に生まれたからには育ててみたい。苦労すると思うけど。養子を迎えることをどう思うか。	養子をめぐってなかなか決断できないのは当然である。カップルでよく話し合って出した結論ならどんなものでありよいのではないか。
126	30分	30歳女	本人	神奈川	男性不妊。AID１０回行ったが成功しない。子供がいないことで孤独感あり。男性不妊の情報が少ない。近々弟の結婚式があるが親戚が集まるので出たくない。	AIDの場合、成功した場合でもつらいことがある。子供のことも考えてほしい。
143	36分	31歳女	本人	長崎	二人目不妊。医師は「そこまで思い詰めなくてもいいのでは」と言う。周囲は一人っ子はかわいそうとか二人目はまだとか言う。３歳になる子供も兄弟を欲しがっている。病院では卵管造影を勧めるがこのまま自然に任せようか、検査治療をしようか迷っている。	一人っ子は社会性が身に付かないなどという俗説を鵜呑みにし不安に思うより、社会性を身につけていけるような環境を子供に与えていく考え方もある。
151	8分	50歳男	妻	神奈川	インポテンツのためマスターベーションで採精できない。この状態で人工授精することができるだろうか。	射精できなくても採精は可能。インポテンツの原因が心因的なものであれば心のカウンセリングが必要。
159	7分	25歳女	義母	不明	嫁が基礎体温を見せたら、注射をしたほうがいいと言われたらしい。副作用はあるのか。嫁には直接聞けない、プレッシャーをかけるようで…。	嫁が悩んでいるようなら、このホットラインを教えてあげて。
162	42分	42歳女	本人	東京	治療１０年。AIH８０回くらい受けた。いろいろな病院を勧められたが、今の病院があっている。通院が好きになった。子供のいる友だちとは縁を切った。親戚とも付き合っていない。成功者以外の人の話も聞きたい。	自助グループ紹介。
167	16分	36歳女	本人	茨城	お金の問題を訴えたい。年間１００万円くらい使う。パートの収入全部をそれに使う。産みたいのに産めない人が多いことを知って欲しい。体外受精を年２回くらい受けたいと思うが１回４０万かかる。人工授精月５～６万かかる。有名な病院へかわりたいがお金がかかるのでつらい。	厚生省に申し出たら如何？。 報告書は作る予定があることを伝えた。

174	18分	36歳女	本人	三重	黄体機能不全。薬の副作用が出ていると思うが、医師が食品アレルギーだろうと取り合ってくれない。病院によって対応が違うので不信がある。	医療機関一覧掲載の商業誌紹介
194	15分	31歳女	本人	静岡	男性不妊AIH1回。AID2回。自分自身が養女。2代続くのは何かの因果か。これからどうしたらよいか。AIDに不安もある。	AIHとAIDには大きな違いがある。夫婦とよく相談してほしい。
196	43分	39歳女	本人	東京	治療はやるだけやった。どうしたら子供のいない人生を考えられるか。不妊のサークルにも参加していたが、妊娠する人が続出して止めた。夫は二人だけの人生でもいいと言っている。	悩むときは徹底して悩むこと。治療に関しては満足できたことはとても良かったね。自分の気持ちを整理して結論を出す。自分の気持ちと向き合うことが大切、逃げないで。
197	34分	32歳女	本人	神奈川	二人目不妊。一人っ子だとかわいそう。子供を産めないのは欠陥商品。隠しながら不妊治療に通っている負い目が一番辛い。	子供のために治療というが、子供と不妊治療を一度切り離し、自分自身がどうしたいかを考えてみて。
236	19分	33歳女	本人	東京	ホルモン剤＋排卵タイミング＋AIH6回。AIH１０回で駄目だったらIVFといわれている。ホルモン剤が何の薬か、なぜ量が増えたのかなど教えてくれない。聞いたら医師との関係が悪くなるのではないか。どこか病院を教えてほしい。	病院を替えていいと思っているくらいなら思いきって医師に聞いてみれば。薬のことは後に必要になるので知っておいた方がよいのでは。
243	21分	41歳男	妻	兵庫	夫再婚。パイプカットをしていたがこれを解く処置をしたいが、検査の結果は無精子症。病院を教えてほしい。	まずは泌尿器科にて相談を。不妊外来のある病院紹介。
245	7分	31歳女	本人	不明	自覚症状がないのに筋腫があるといわれたがピンとこない。筋腫があると不妊になるのか。どういう治療をしていけばよいのか。	セカンドオピニオンを求めている感じがあったため、診断に納得がいかない場合、別の病院で意見を聞いてみるのもよいのでは。
255	36分	34歳女	本人	茨城	二人目不妊。AIH１５回。誰にも悩みを相談できない。	話すうち、周りの人が圧力をかけている以上に自分で自分により以上の圧力をかけてしまっているのだと気付いた様子。
268	16分	30歳女	本人	千葉	排卵誘発剤を2年使用。続けて大丈夫か、体は元に戻るのかと医師に聞くと治療する	体調と相談しながらというのはどうか。

					かどうかは自分で決めてくれと言う。	
275	10分	28歳女	夫	愛知	検査を受けようと総合病院の産婦人科へ行ったが医師の対応が冷たく二度と病院へは行きたくないと言い出した。どこか良い病院を紹介してほしい。	有名な病院はそれゆえに混んでいたり、医師とじっくり話せる時間が少ない場合が多い。検査も治療もストレスがたまるものなので夫としては彼女を大きな気持ちで包み込んでほしい。本人に電話させて欲しい。
20	11分	28歳女	本人	不明	７週で流産。医師から「あなたは不育症だ」と言われた。どうすればよいのか。不育症の検査をどうしてもしてもらいたい。	不育症と断定できるか疑問。検査をしたいという気持ちを医師に伝えてみたら。
21	22分	32歳女	本人	東京	うまく排卵していない。いま通院している病院は妊婦さんが多くてなんとなくイヤ。注射は怖い。でも早く妊娠したい…複雑です。	病院に不安があれば転院も一考。
33	25分	32歳女	本人	東京	腹腔鏡の検査を勧められているが怖い。金額も２０万～３０万といわれた。AIHも勧められている。なぜ勧めるのか。自分が納得してから治療に進みたい。	腹腔鏡検査で内膜症や癒着が見つかることがある。入院の関係、金額の問題などからAIHを勧めた可能性はある。
36	16分	27歳女	本人	神奈川	何気ない言葉が辛い。従兄弟の子供がくると最近は避けたくなる。かわいくない、こういうことを思う自分がダメだと思う。情けない。	思ってもいい。自分を責めないで。
38	23分	32歳女	本人	三重	二人目不妊。公園では「一人しか育ててないくせに」。看護婦には「一人いるからいいじゃない」。気持ちが分かってくれる人がほしい。娘「私がいるからいいじゃない」と慰める。	一人っ子でも娘さんは優しい。あなた自身も一人っ子ではかわいそう、良くないと思いますか。 自助グループ紹介。
40	15分	32歳女	本人	広島	名前の変わりに「子なしさん」といわれた。「作り方を教えてあげようか」「一人分けてあげようか」などともいわれた。 自然にしていたいと、治療はしていない。 自助グループに入り勇気づけられ外に気持ちを向けようと思い始めた。	どんどん話して辛い気持ちを我慢しないで。心ない言葉に反論できるようになるかもしれない。
50	65分	36歳女	本人	東京	夫の父から「墓守を早く産んで欲しい。孫がいなくては死んでも死にきれない。墓がボーボーになってしまう」。このままできなければ私は夫の父から恨まれたままではないだろうか。	悩みを整理することの大切さを伝える。 自助グループ紹介。
66	14	28歳	夫	埼玉	妻が病院へ行きたがらない。病院へ行かな	電話相談には限界が

	分	女			いで解決することはできなものか。保健所、不妊ホットラインに電話したが、いずれも専門機関への相談を勧められた。	ある。
77	15分	28歳女	本人	東京	病院へ通院しているがほとんど何の説明もない。毎回担当医がかわるので不安。	自助グループ紹介。商業誌紹介。
81	15分	30歳女	本人	静岡	人工授精で妊娠。障害をもって産まれてくる可能性が高いのか。	データでは差はない。いかなる妊娠にも障害の可能性はある。障害がある子が産まれたとき母親が責められることが多いが、そのようなとき二人でどう対応するかを話し合おう。
83	6分	34歳女	本人	東京	実父がホットラインを教えてくれた。結婚して何年たったら病院に行けばよいか。	一般的に2年と言われてはいるが、行きたくなったときに行っていい。父親に言われたからとりあえず電話したという印象。
85	18分	48歳女	本人	東京	病院の不妊相談窓口の時間が短い。相談窓口の医師と主治医の話が食い違う。時間が短いと抗議したため気まずくなった。ホットラインは病院で紹介された。	主治医が勧める方法を一般的に説明するが、主治医にきちんと相談するよう話す。
86	7分	30歳女	本人	静岡	病院で処方された薬が「薬の分かる本」に掲載されていないので心配になった。	医師は診察した上で必要な薬を出しているはず、心配なら主治医によく話をきいてみることが大切。
96	23分	39歳男	妻	不明	男性不妊。大学病院への紹介状をもらったが行こうとしない。夫は「一人で生きてゆけない」と弱音を吐いたり、「さよなら」とやけになっている。話し合いがもてない、夫のつらさはよく分かる。	夫に対してあなたの気持ちをいつでも聴くよというメッセージを伝えておく。自助グループ紹介。
161	35分	28歳女	本人	大阪	治療期間2ヶ月。排卵があるか不安。不妊と分かるのが怖い。離婚しなければならないのか。検査をしたいと思うが、結果が分かるのが怖い。	原因を調べてから必要な治療を検討していくことになる。不妊だったら離婚と決めつけなくていい。不妊でもあなたは何も悪くない。
164	11分	28歳女	本人	千葉	二人目不妊。医師はそのうちできるでしょうと詳しい検査をしてくれない。このままでよいのか不安。病院を紹介してほしい。	商業誌紹介。
217	25分	31歳女	本人	東京	2歳8ヶ月の子供、軽い障害がある。二人目不妊。子供に障害があるので検査や排卵	障害をもったお子さんと、自分、夫婦な

					誘発剤は使いたくない。漢方医を紹介してほしい。	どについて考える機会を勧める。障害児をもつ母親のネットワーク紹介。
271	10分	32歳男	本人	埼玉	妻が通う病院、医師の言うことが毎回違い不信感をもっている。夫は検査しなくて良いと言うが、本当に男性の検査は不要なのか。	必要。
282	18分	33歳女	本人	神奈川	卵管造影を痛いので拒否したら、医師が「あなたは卵管造影したことはないんだから痛さは分からないんだよ」と冷たく言った。不妊のつらさに共感してくれるような医者ではないと感じた。これだけの理由で病院をかえてもいいのか。	①技術を信頼し共感を得られないことを我慢できるなら割り切る。 ②たまたま冷たかったのか様子を見る ③ストレスを感じるなら替える
316	14分	32歳女	本人	広島	2回流産。検査一通り済み。しかし医師はどこが悪いか言わない。IVFを希望したがまだ時期ではないと言われた。	検査をしても原因がはっきりしない場合がある。妊娠経験があり検査も異常がない場合IVFよりAIHから入ることがおおいので、医師にそちらの希望を伝えてみては。
334	17分	38歳女	本人	千葉	HMG-HCGの誘発剤を「今はまだ使いたくない」といったら「うちの治療方針に従わないようだったら看ませんよ」と言われた。転院した今度の病院も気ぜわしいが前よりはよさそう。	受容。その気持をうけとめつつ主治医に質問することを勧める。
348	11分	28歳女	本人	東京	医師の説明がほとんどない。排卵誘発剤使用患者の死亡が報道されたので説明を求めたら「あなたはやりにくい患者だ」と言われた。病院を教えて。	商業誌紹介。
351	10分	32歳女	本人	愛知	有名な病院へ通っているが、医師からの説明がない。こちらから求めると「忙しい、忙しい、看護婦さんにでも聞いて」と取り合ってくれないので嫌になった。病院は替えてもよいものなのか。	良い。納得して病院げ通うことは大事。
431	9分	41歳女	本人	東京	IVFの結果、医師からあきらめたほうがよいと言われた。夫は病院を変わっても治療してほしいというが自分はこのままあきらめてもいいかなと思うが迷っている。	治療法について情報を得ることもこれからの生き方を選ぶのに大切。その上で二人で話し合いを。医療機関紹介。
465	36分	28歳女	本人	埼玉	子宮内膜症の治療か不妊の治療かを医師から迫られた。夫、実母と3人で病院へ行き、母親がいろいろ言ったら医師にすごく怒ら	医師の見解を聞くこと、資料を集めることは大事だが、決め

					れた。医師は信用できないが、病院は替わりたくない。医師に治療を決めてもらいたい。	るのは本人だという考えは大切。納得のいい治療法を選ぼう。
475	22分	36歳女	本人	高知	大学病院通院中。うちは研究に重きを置いているので2年間は妊娠しないものと思って下さいといわれた。	納得できないなら転院してみるのも良い。商業誌紹介。
614	26分	25歳女	本人	埼玉	個人医院なのに医師がころころ変わる。HMG-HCG療法で卵巣が握り拳大に腫れる。卵巣腫瘍ではないか、このまま今の病院でよいのか。義母が宗教家で信じないからできないんだといわれ圧力を感じる。	葛藤をどう整理するか、ホットライン利用など話す。自助グループ紹介。
646	27分	27歳女	本人	埼玉	子宮外妊娠2回。いつまで通えばいいのか、完全に産めないと言われたほうがあきらめがつく。通院中の病院を替えたい、地元の病院を紹介して欲しい。	地元の保健所が詳しいかもしれない。いつまでと必ずとは医師でも誰でも断言はできない。

5．まとめにかえて…不妊の悩みと不妊相談

（1）不妊の悩みとは

「不妊の悩み」には、医療とのかかわり、夫婦関係、家族関係、親子関係、嫁姑関係、性アイデンティテイ、女性の自立、世間の価値観など、さまざまな背景がある。さまざまな思いが交錯するタペストリーといってもよいだろう、それらがないまぜになった複雑なものであるということを、まず認識する必要がある。しかも、そこには本人の生育歴から生まれた家族観、人生観、ときにはトラウマさえからんでいる。

また、周知のように、不妊治療は多大な負担を伴っている。一番大きな問題は、治療を受けても必ずしも妊娠、出産に至るわけではないという点である。事実、体外受精を１０数回繰り返しても妊娠に至らないカップルはたくさんいる。しかも、だれが妊娠してだれが妊娠しないのか、最終的な見通しは医師にもわからない。そうした「見通しのない治療」の中で身も心も疲弊する、という声は多い。むしろ現代の生殖医療は新たな不妊の悩みを生み出したとも言える。「不妊相談」＝「医療相談」ではないという意味は、そこにもある。むしろ不妊患者が時には治療によって傷つくという場合さえあり、不妊相談はその医療によって受けた傷自体を癒す場とならなければならない時もあるのだ。

（2）「不妊の悩みを癒す」という意味

では、最終的に「不妊の悩みを癒す」あるいは「癒される」とはどういうことか。多くの人は子どもが生まれれば不妊の悩みは解消すると考えるが、それも正しいとは言い難い。

その理由は、現在の不妊治療は、「不妊」そのものを治すわけではないという点である。1人目の子どもが治療によって生まれても、多くの患者は「2人目も治療しないとできない」という不安に怯えている。患者本人にとって不妊という状態が解消されたわけではないのだ。

2つ目は、多くの患者が「不妊である」ということで、すでに癒されようもない傷を抱えてしまっているという点である。不妊であった期間に受けた周囲からの心ない言葉、圧力、さらに治療によって受けた苦しみ。これらを簡単に癒すことはできない。子どもが生まれた後も、長く尾をひく傷である。

また、子どもが生まれたあとに「不妊」の傷が広がることもある。治療によって出産したのち、親や親戚、友人などから「あのまま子どもが生まれなかったらどうしようかと思っていた」「これでやっと一人前になった」などと言われるケースである。これは、周囲の人がそれまでの「不妊であった自分」を、実はまったく認めていなかった、一人前でないと見なしていたということを意味する。逆に言えば、その人は産まなければ決して認められなかった、受け入れられなかったということである。本人にとっては「残酷な本音」ではなかろうか。

確かに、1人産んだ以上、周囲は「これでもう不妊ではない」と見なし、一応の評価を下すだろう。しかし前述したように、妊娠はあくまで治療によって手助けされたものであり、本人の「不妊」という状態が解消されたわけではない。本人はいまだ「不妊」のままなのである。

それに加えて、世間では「ひとりっ子」に対する偏見も根強い。不妊であること、その子が治療の末にやっと授かった子であることを知らぬ周囲は、いとも簡単に「2人目はまだ」「ひとりっ子ではかわいそう」と言う。治療をしていたことを知ってはいても、その実態や苦しみに無理解な親も、まだ同様のことを言う。「1人治療でできたのだから、2人目もできぬはずはない」という意識がそこにはあるのだろう。

第1子が女児だった場合には、「今度は男の子を」という期待とプレッシャーも強い。

そして、最後に大事なのは、現実にはいくら不妊治療を繰り返しても、子どもが授からないカップルは確実にいるという点である。不妊相談が「子どもが生まれること」への援助を目標にしてしまったら、これらの「生まれなかった」「産めなかった」カップルは確実に取りこぼされてしまうことにはならないか。

重要なのは、最終的に子どもがができなくても、その人達が生き生きとした人生を送れることである。これは「子どもをあきらめて生きる」ということではない。不妊であることを、その人が心理的に十分に受け入れる、いわば不妊である自分を認めていくということである。

そのためには、たとえ治療中であっても、一方では「不妊である私」を受け入れていくための準備が必要である。不妊であることをマイナスにとらえる心象、不妊である自分を愛せないといった心理を、相談の中で少しずつ癒していく必要がある。

その意味で、相談員は「不妊＝不幸」「出産＝幸せ」といった構図で相談にあたる

ことは厳に謹まなければならない。むしろ「子どもが欲しい」という訴えの裏には、多くの場合「不妊である私を認めてほしい」という叫びが隠されていることも知らなければならない。そうしたことを十分に配慮できない相談、あるいは相談員の存在は、不妊相談においてはむしろ罪悪であるとさえ言える。

このように、不妊の悩みは「治療中」にだけ生じるものではないことが、不妊相談＝治療相談にならない最大の理由である。

まず生じるのは、病院に行くべきか、検査に行くべきかという迷いである。一般には「２年たっても妊娠しなかったら、不妊を疑い病院へ」と言われているが、１年あるいは１年半などの時期にはどう判断すればよいのか、素人としては迷うところである。もちろん産婦人科受診に抵抗がない女性はこの時点で病院の門をたたくであろうが、妊娠・出産で初めて産婦人科にかかる女性がほとんどである事実が示すように、多くの女性にとっては産婦人科は未知の領域であり、恥ずかしさやためらいも未だ残る。また、２０～３０代には「転勤続の妻」も多く、見知らぬ土地でどこの病院にかかればよいのかわからない、ということもよくある。

中には「不妊の宣告」におびえる女性もいる。欲しいのになかなか子どもができないことに悩みつつ、病院に行って本当に「あなたはできない」と宣告されたらどうしよう、という不安である。事実、病院に行くべきかどうしようかということだけで、２～３年悩む女性は少なくない。病院や医療従事者に相談をすれば「何はともあれ一度受診しなさい」と言われることは明らかであるし、そうして病院に足を踏み入れること自体が悩みの種となっているのであるから、当然、病院内の医療相談では対応できない。

また、医師に指示される毎月のセックス（sex by the calendar）、薬の副作用、何度繰り返しても妊娠しない現実などに疲れ果て、治療を休みたいと考える人も多い。実際に休んでいる人もたくさんいる。けれど、これはあくまで「西洋医学における治療」の休止である。この時期、漢方薬や鍼灸、ヨガ、整体などの東洋医学による妊娠（あるいは妊娠に向けた体の調整）を試し始める人も少なくない。また「何もしない」ことによって心身の健康を取り戻し、それによって妊娠ができればと考える人もいる。つまり「治療をしていない」というだけで、不妊の悩みそのものが消え去ったわけではないのである。多かれ少なかれ周囲や家族からのプレッシャーは続いているし、「このまま自然にまかせたい」と考える一方、「このままでよいのか」「このまま子どものいない人生になるのか」「治療を再開すべきか」など、当事者の心は揺れている。そうした「治療休止中」の不安や揺れに対して、不妊治療を目的とした医療相談で、解決の道を見いだすことができるであろうか。

さらに、治療をやめたあとも不妊の悩みが残ったり、ぶり返すことも多い。この時

点になると、不妊の悩みは「子どもができないこと」への苦しみではなく、「家族がいないこと」への不安や哀しみに変質する。

このほか、不妊治療によって子どもが生まれたあとにも残る課題がある。非配偶者間人工授精（ＡＩＤ）によって子どもが生まれた場合に夫婦がかかえる葛藤もある。不妊はその夫婦の生涯にわたる暮らし、女性や男性の一生のアイデンティティにかかわる問題であり、「治療」という限定された短い期間の援助だけで片付くものでは、決してない。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約

1997 年 1 月から開設した『不妊ホットライン』に寄せられた相談内容について詳細に分析し、不妊の当事者や家族が何を悩み、中でも現在受けている不妊治療に対して、 どのような意見を有しているかについて明らかにした。更に、これらの結果を踏まえて、不妊相談の在り方を考えるとともに、不妊の悩みをどう癒やしていくことができるかなどについて考察を加えた。

『不妊ホットライン』に寄せられた一年間の相談件数は 926 件。その概要は以下の通りである。

①性別:男性 3.8%、女性 96.2%

②相談者の結婚の有無:既婚 95.7%、未婚 1.3%

③相談時間:11〜20 分 42.2%、21〜30 分 22. 2%、10 分以下 19.5%

④相談者の年齢:30〜39 歳 62.1%、20〜29 歳 23.9%

⑤相談者の職業:家 51.8%、パートタイム 14.1%、フルタイム 13.8%

⑥ホットラインを知るきっかけ:新聞 63.7%、本/雑誌 10.3%

⑦相談内容:治療への迷い 35.1%、病院情報 19.3%、自分自身のこと 16. 6%、検査について 1 2.0%、病院への不満 11.4%

⑧子供の有無:子供あり 14.7%、子供なし 79.4%

⑨不妊治療の現状:治療中 51.2%、治療なし 37.3%

⑩結婚年数:4 年以下 48.3%、5〜9 年 29.4%、 10〜14 年 7.9%

⑪治療期間:治療なし 20.4%、1 年 21.8%、2 年 12.7%、3 年 7.5%、4 年 3.6%、 5 年以上 7.7%

これら、寄せられた 926 件の相談内容を集約した結果、以下の結論を得た。

(1)不妊の悩みは、家族や周囲からのプレッシャー、社会的抑圧、夫婦関係、本人の生育 歴から生まれた家族観、人生観などがないまぜになったものとして現出するものであっ て、それは決して不妊治療についての相談を代表とするものではない。

1)昭和大学医学部産科婦人科学教室

2) (社) 日本家族計画協会クリニック

(2)誰が妊娠し、誰が妊娠しないのかの最終的な見通しは、医師にもわからず、その見通 しのない治療の中で、心身を疲弊させている患者は少なくない。

(3)「不妊の悩みを癒やす」とは、子供ができれば解消するとの誤解があるが、現在の不 妊治療が、不妊とのものを治すわけではないわけで、妊娠が必ずしも不妊からの解放に 繋がるわけではない。

(4)現実には、いくら不妊治療を繰り返しても子供が授からないカップルがおり、不妊相談を「子供が生まれることを」への援助を目標としてしまったら、彼らは取りこぼされ て

しまうことになる。 したがって、不妊相談を医療相談、治療相談に終始させないよ　うな配慮が必要である。
(5)そのためにも、不妊相談を不妊治療施設に併設するのではなく、不妊治療施設と 独立させた形で執り行うことが期待される。